第１回鶴岡市こどもの遊び場に関する協議会 会議概要

○　**日　　時**　　令和６年１０月２９日（火）　　１４時～１６時０５分
○　**会　　場**　　庄内産業振興センター　第２研修室
○　**出席委員**
櫻井孝輔／佐藤竜太／渡辺真美／佐藤正和／田中英嗣／冨樫繁朋／本間妃織／本間久士／長谷川玲子／清野康子／今野喜行／丹治亜香音／阿部真一
○　**欠席委員**　梅木広士／大滝忠
○　**アドバイザー**　仲綾子氏（オンライン参加）
○　**市側出席職員**
鶴岡市長　皆川治／企画部長　上野修／健康福祉部長　佐藤繁義／建設部長　坂井正則／政策企画課若者・子育て世代応援推進室長　本間育子／子育て推進課長　成沢真紀／子育て推進課主幹　五十嵐雄／都市計画課長　三浦一夫／子育て推進課課長補佐　五十嵐広樹／都市計画課課長補佐　本間仁／子育て推進課子育て推進専門員　上野和義／同小林洋之／同課主事　髙木康輔／政策企画課主事　菅原拓磨
○　**公開・非公開の別**　　公開
○　**傍聴者の人数**　　３人
○　**協議・報告事項等**
(1)鶴岡市こどもの遊び場に関する協議会の設置について（資料１－１、１－２）
(2)講話「こどもの遊び環境のデザイン」（資料２）
(3)鶴岡市の遊び場整備の取組について
①親子モニター事業の実施について（資料３）
②屋外の遊び場の整備について（資料４）
③鶴岡市こども会議について（資料５）

１　開　会　事務局（子育て推進課主幹）

２　委嘱状交付

３　挨　拶　（鶴岡市長）

事務局より協議会の成立報告

４　自己紹介

５　委員長及び副委員長の選出
委員長に阿部真一氏、副委員長に清野康子氏を選出

６　鶴岡市こどもの遊び場に関する協議会の設置について　〈議長：委員長〉

議長

鶴岡市こどもの遊び場に関する協議会の設置について、事務局の説明をお願いする。

事務局（子育て推進課長）

鶴岡市こどもの遊び場に関する協議会の設置について、資料１－１、資料１－２により説明。

議長

ただいまの説明に質疑等あるか。

（質疑無し）

７　講話　〈仲綾子アドバイザー〉

こどもの遊び環境のデザインについて講話　資料２

議長

遊びの定義から始まって、中遊び外遊びの特徴、鶴岡市の遊び場の整備について広い分野にわたってお話いただいた。委員の皆さんから質問等あるか。

委員

遊び場をソフトとハードに分けた場合、今はハードを中心にご説明いただいたが、例えば公園に遊びの達人がいて、子ども達に遊びを教えてくれるような取り組みはあるか。

仲アドバイザー

プレーパークにはプレイリーダーと呼ばれる人がいて、その人がとても重要だ。イギリスではプレイリーダーを養成する大学のコースがある。

議長

羽根木プレーパークや駒沢プレーパークにもプレイリーダーはいるのか。成り立ちは。

仲アドバイザー

羽根木プレーパークには天野さんという伝説のプレイリーダーがいて、自分の活動だけでなく後継者を育てている。他にもいろいろなところにプレイリーダーはいるが、それだけで食べられるほどの給料を支払うことが難しく、若い方はアルバイトをするなどしながら運営しているところが多い。

委員

自分が子どもの頃は近所の公園で好き勝手にあそんでいたが、今は週末でも親子で遊んで

いる姿があまり見られない。全国で活気がある公園はどのくらいあるか。そういう公園がある町内会や自治体は何が違うのか。

仲アドバイザー

公園の大事さは皆わかっているが、自分の近くには持ってこないでという迷惑施設的な扱いになってしまっている。活気のある公園として、今池袋が熱いと言われていて、若者が集まるし、禁止看板もやめて、野球やサッカーをしてもいいとなり、子ども達が帰ってきている。

子どもは子育て世代や家庭で育ててね、ではなく、地域全体で、未来を担う私たちの子どもとして育てようという考え方が共有できると一歩目を踏み出せるのではないか。

８　協議

（１）鶴岡市の遊び場整備の取組について

議長

鶴岡市の遊び場整備の取組について、事務局の説明をお願いする。

事務局（子育て推進課長）

①親子モニター事業の実施について、資料３により説明。

事務局（都市計画課長）

②屋外の遊び場の整備について、資料４により説明。

事務局（子育て推進課長）

③鶴岡市こども会議について、資料５により説明。

議長

先ほどの仲先生のお話や事務局からの説明について、皆さんの率直な感想をお聞かせいただきたい。

委員

子ども達が自由に遊べるような場所が鶴岡市にも出来るといいと思う。

幼稚園・認定こども園連合会の中では、屋内の遊び場を整えてほしいという意見が毎年出る。ソライは料金が高いので、そこをうまく活用できるといいという意見も出る。

子どもを連れて酒田市の公園や三川町の屋内施設によく行くが、外や中で思い切り遊べる施設を整えてもらえるとありがたい。

東根のあそびあランドはプレーパークになっていて、プレイリーダーも遊びを教えてくれるので、そのような施設ができるといいなと感じた。

委員

男の子と女の子では遊び方が違い、男の子は外で遊ぶ機会は多いが、女の子は中で遊ぶことが多いと感じる。

最近子どもが、地域の公園に行ったが、遊具が何もなくて遊べなかったと言っていた。自分の地域は自然が豊かなので、何もなくて遊べないというよりは、自分たちで遊び方を考えられればいいと思っていた。先生の話にあったプレイリーダーのように面倒を見てくれる人がいれば遊び方も変わってくるかなと感じた。

委員

児童館や支援センターをよく利用している。近所の児童館や公園には結構人が集まっていて、人が集まる公園はどういう特徴があるか考えた時に、近所の公園では、地域の人が毎朝のようにゴミ拾いをしてくれたり、定期的に草刈りをしたりして、きれいに保たれている。遊具が壊れてもすぐに修理してくれるので、そういうことが理由で人が集まる公園になっていると感じる。

他のお母さん方に遊び場の要望を聞くと、冬や天気の悪い日に遊ぶことができる室内の遊び場が欲しいという声が多い。道の駅ふくしまにあるような室内の砂場が鶴岡にも欲しい。

中央児童館など、今ある施設が老朽化していて、遊具も使えない状態が続いているのが気になっている。何か新しく作るというよりは、人の手をかけて修繕して使っていきたいなと思っている。

委員

地域の公園に遊具などを整備したいと考えている。他の公園を見る機会は少ないが、子ども達に関わる環境など勉強しながら、公園や子ども達の居場所づくりに参考になるようなことを考えたい。

委員

こども会議の提案の中に、町内の公園や学校、公民館などが出てこず、こうした場所が遊び場として認知されていないことが残念だと感じる。ただ残念で終わらせるのでなく、ではどうすればいいかを考えるのがこの会だと思うので、色々と話し合って進めていきたい。子ども達にとって何がいいのか、何ができるのか、そういったことを考えあえる、そんないいチームでこれから過ごせればいいと思う。

委員

遊びとは心の余白であり、それを楽しむことと思っている。鶴岡が子どもをどんな大人にしたいのかという部分も、遊び場づくりには大きな要素の一つだと思う。

公園をこどもの遊び場という形で定義するのはよくないと思う。大人も余白が少なくなってきて、余白を求めており、そこには公園がぴったりで、安堵を求める場所が公園であってもいいのではないか。それが実現できれば公園に大人が行き、公園をどう改善したらいいか

わかってくる。公園イコール子どもが遊ぶ場所と定義づけてしまうと何も進まない。
遊び場を大きくデザインしていくのであれば、公園の運営も議論すべきであり、次回会議の際に、公園の分布や利用者数などの情報が欲しい。

委員

年に数回、自分たち夫婦と車いす利用の娘と孫とで公園に行くが、鶴岡市内にはベストな公園がない。よく利用するのは三川町の道の駅近くの公園で、駐車場から車いすの移動が苦にならず、同じように孫を連れた高齢者がいて気兼ねすることがない。若い親御さんだけだと行きづらいと感じる。近くに売店や自動販売機があって子どもも喜ぶ。
公園については遊具の整備だけでなく、利用者の動線も考慮して欲しい。
多様性を認め合う、誰もが楽しめるインクルーシブ公園は全国的に整備されてきていて、鶴岡市でも多様性という視点をもって整備していただければありがたい。

委員

どうしても親は遊びに対して目的をもってしまいがちで、先生のお話を聞いて自分の子育てを反省した。
地元にいるとソライが全国的に評価されていることに気づきにくいが、やはり料金が高いと思う。鶴岡市民は少し安くして市外の人と差別化すると、行きやすくなるのではないか。
こども会議の提案にある、いろいろな遊びをしながらいろいろな人と交流できる施設というのは、まちづくりの観点から大事と思う。また、中高生の居場所も大事で、ボランティアができるようにすれば、居場所の一つに繋がるかと思う。
皆さん内陸のような施設が欲しいと思うと思うが、鶴岡市の今後を考えると、他と同じでなくても、鶴岡市独自の施設があってもいいと思う。遊び場も、日々子どもだけで行ける日常の遊び場と、家族などと行く非日常の遊び場と捉えると、日常の遊び場としては、既存の施設を整備するのも一つではないか。既存の施設を整えつつ、他とは違う施設を考えたり、ソライをもっと有効に使えたらいいのではないか。

委員

第二学区コミセンの移転改築構想があり、その中に遊び場の整備も含まれていて、プレーパークをぜひ整備して欲しいと考えていた。東根のあそびあランドは集客力があり魅力的だが、そういった子ども達が主体的に遊べる場が庄内には少ない。
自分はボーイスカウトの活動をしているが、ボーイスカウトはすべてが遊びで、子ども達は自然の中で生き生きと活動し、仲間とともにチームワークで活動する中で、人間関係も学んでいく。自分たちが楽しい活動をし、ともに育つという環境は大事だが、今は規制が多く昔のようにガキ大将に連れられて遊ぶということはなくなった。その中でプレイリーダーが見守りや遊びのきっかけを作ってくれればいい遊び場になっていくのではないか。
中央児童館の敷地は広く、遊び場として拡張し、地元住民や高校生ボランティア、中央児

童館の連携でいい場所になると思う。

委員

鶴岡市には保育園に併設した子育て支援センターが 15 か所あるが、遊び場としてどこが認識されているのかどうかが重要と思う。

年齢や性別、障害の有無に関わらず、来た人がそれぞれ楽しめる遊び場があればいい。何かをするためではなく何もしない場所、来た人それぞれが心地よくいられる場所が大事と思う。アンケートで、どういう遊具が必要か聞けば遊具を思い浮かべるし、どんな施設が必要か聞けば全天候型という答えになるので、幅を狭めずにどういう場が必要か考えたい。

今子育てをしている人はどうしても今に焦点があうと思うが、ちょっと先の未来を見て、5 年後 10 年後にどういう鶴岡になっているか、子ども達はどういう遊びをするか考えていくことも必要と思う。

禁止の看板の話もあったが、看板がなくても、その役割を果たす親やその場にいる大人が遊びに対する共通認識をもって遊び場のあり方を考えないといけないと思う。

議長

仲先生から、委員の感想に対するコメントをいただきたい。

仲アドバイザー

新しく作るというよりは今あるものに手をかけて使っていきたいというコメントに共感した。あちこちの自治体でよそにあるのと同じような施設を作りたいとご相談を受けるが、それでは全国どこに行っても同じ遊び場が生まれてしまう。関連して、鶴岡市独自の取組が重要、それも日常と非日常というキーワードで開設されたのは説得力がある。

また、公園イコール子どもの遊び場としてしまうと考えが狭まってしまうという意見や、公園を多世代が交流する場として考える必要があるという意見は、皆さんが同じ方向を向いているというのがよくわかる。

チームで議論していきたいという意見はまさにその通りで、自分もこのチームに入れていただいて大変ありがたいと思っている。

議長

皆川市長の感想を伺いたい。

皆川市長

これまで遊びというものを真剣に考えたことはなく、仲先生や委員の皆様からいろいろ教えていただき、遊び場に対する思い込みがあったことや視野が狭かったことに気づかされた。行政の基本的な進め方は、皆様の意見をしっかりと聞き、企画をして実施していくこと。直ちにできることや令和 7 年度予算に反映できるもの、その先にやることなど考えながらしっかり取

り組んでいきたい。

議長

　これからも仲先生からご指導いただきながら、聞きっ放しではなく、このチームでまとめていくことを心掛けていきたい。

　これで協議の時間を閉じる。

９　その他（子育て推進課主幹）

　事務局から、次回開催日程と市長との対話集会開催をお知らせする。

　以上で、第１回鶴岡市こどもの遊び場に関する協議会を閉会する。

～午後４時０５分終了～